

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



ごあいさつ

病院長 織田 弘美

埼玉医科大学病院は、特定機能病院として高度な医療を提供することを義務付けられていますが、同時に埼玉県西部の中核病院として地域医療の充実と発展に寄与することが求められています。

限られた医療資源を有効に活用するためには、大学病院と地域医療機関が連携して診療にあたる必要があります。そのためには、大学病院は高度医療や急性期医療を引き受け、症状が安定したら地域の病院での入院治療の継続をお願いし、退院が可能となったらかかりつけ医の先生方に日常の通院治療をお願いすることになります。

当院は、円滑な病々連携や病診連携を実現するために、これまで連携施設から直接検査予約や診察予約ができるカルナシステムの導入、年2回の紹介患者報告会シンフォニーの開催、病々連携連絡会議の開催、などを行ってきましたが、この度「地域連携ニュース」を定期的に発行することになりました。

新しい診療スタッフや新たな取組みなどの大学病院の最新情報を発信するとともに、連携施設の先生方からの情報も掲載して、心の通った連携を実現するための一助にしたいと考えます。

宜しく願い申し上げます。

創刊号

Contents

年頭のごあいさつ	2
最近の知見	3
耳鼻咽喉科から	
診療科のご紹介	4
リウマチ膠原病科	
消化器・一般外科	
新任医師のご紹介	5
産科・婦人科	
整形外科・脊椎外科	
放射線腫瘍科	
眼科／緩和医療科	
病院長からのエール	
看護部から	7
地域医療連携室から	
カルナ(インターネット予約システム)の利用	8
利用者の声	
かあいファミリークリニック	8
ゆずの木台クリニック	9

謹賀新年 本年もよろしくお祈いします。

埼玉医科大学病院は、地域医療機関の皆様と連携して、安全で安心な高度医療の実現を目指します。

病院長 織田 弘美

新しい年も私達は、地域の患者さんにとって良質な診療連携を行います。どうぞ宜しくお願い致します。

院長代理 三村 俊英

患者さんのために、地域の看護職員の方々と顔の見える関係で連携させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

副院長 鈴木 美香

地域の先生達と一緒に、地域の医療を守っていけるよう全力で頑張ります。皆様の御連絡をお待ちしています。

副院長 中元 秀友

今年の第一目標は地域の先生との連携強化です。

どうぞよろしくお祈い致します。

副院長 篠塚 望

成育医療センターでは、様々な手法で周産期領域の診断と治療を行っています。いつでもご紹介ください。

院長補佐 亀井 良政

子どもたちのため、安全で、より良い医療を提供できるように本年も微力を尽くします。

院長補佐 徳山 研一

理想郷プロジェクトの担当ミッション 地域包括ケアシステム構築と連携強化に尽力致します。

院長補佐 市岡 滋

地域密着・高度医療の医大病院。昨年は1都1府12県の方の手術を行った脳外科、今年も安全確実な医療に努めます。

院長補佐 藤巻 高光

麻酔科もよろしくお祈い申し上げます。

手術を必要とする患者さんや痛みに悩む患者さんを診ております。

院長補佐 長坂 浩

耳鼻咽喉科をどうぞよろしくお祈い申し上げます。

「きこえ改善」「副鼻腔炎」の手術、アレルギー鼻炎の舌下免疫治療、嚥下・音声専門外来もあります。

院長補佐 池園 哲郎



最近の知見～耳鼻咽喉科から～

■人工内耳

最近の技術進歩はめざましく人工臓器として最も成功していると言われていています（図1）。両側高度感音難聴の方が対象で、先天性難聴の場合はなるべく早期に1歳頃から手術を行います。遺伝子検査と組み合わせることで、重度難聴を早期に診断できるようになりました。大人の場合は、両側聞こえなくなった、だんだん補聴器だけでは会話が不自由になってきた場合が適応です。つい先日、適応基準が緩和され両側70デシベルよりも重度な場合、語音明瞭度が50%より悪い場合に手術できます。より多くの患者さんが人工内耳の恩恵を受けられるようになりました。国からの医療補助も手厚く支給されます。



図1

■アブミ骨手術・人工中耳

耳小骨の固着や奇形に対して最新型のレーザーを用いたアブミ骨手術を行っています（図2）。また、従来の手術法では改善しえなかった場合に適応となる最新式の人工中耳も導入しました。きこえの改善をあきらめていた方は是非一度受診してみてください。

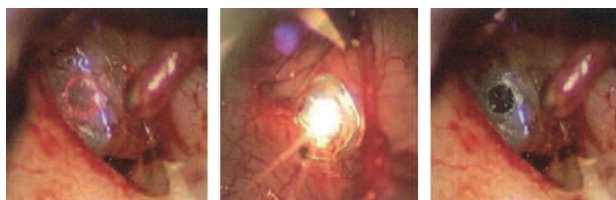


図2

■急性めまいの診断

従来はご存じのカロリック検査（耳に水をいれて強く目が回ったら正常）という方法で三半規管の機能を判断していました。近年、ビデオヘッドインパルステスト（図3）という方法が開発され、初診時に、その場で左右合計6つの半規管の機能検査が可

能となり、迅速診断が可能となりました。しかも検査に伴う不快感がほとんど無い画期的な検査で、患者さんからも好評です。我々は平成23年からこの機器を日本へ導入する活動を行い、つい先日12月に医療機器認定されました。今後、教育セミナーを開催しながら国内他施設への普及活動を行っていきます。



図3

■慢性めまいの診断

慢性にフラフラ感があり、臥位から立位への体位変化や加速度刺激（エレベーターやドライブ）で増悪する方の中に、「外リンパ瘻」が原因である場合があることが分かってきました。埼玉医大が開発した世界初の外リンパ瘻診断蛋白マーカーCTP（図4）による検査を行って、陽性ならば内耳窓閉鎖術によって完治する事が可能です。特に、過去に頭部外傷や、圧外傷（飛行機・ダイビングなど）があった場合で、慢性めまいに悩まされている場合は当科の精密検査を受けてください。



図4

■診療部長のコメント

耳鼻咽喉科は神経耳科と合同で難聴・めまいの最新医療に取り組んでいます。この分野は最近急速に進歩しています。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



耳鼻咽喉科診療部長
池園 哲郎
外来☎：049-276-1296

● リウマチ膠原病科

埼玉医科大学病院リウマチ膠原病科は、誠実で透明性の高い、思いやりのある医療を提供しています。対象疾患は、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスを始めとした膠原病、多くの血管炎、ベーチェット病や成人発症スチル病など膠原病類縁疾患、強直性脊椎炎など脊椎関節症、乾癬性関節炎など多くの疾患を含みます。特に、臓器障害や全身管理が必要となるような重症膠原病は当科の得意とするところです。また関節リウマチに将来進行するかもしれない早期関節炎や当科対象疾患の可能性はあるが、診断未確定や診断困難症例なども当科で対応

します。特に関節リウマチは治療開始時期が早ければ予後が改善し治療中止も可能になる場合がありますので、診断が確定していないことを気にせず患者さんのために早期に当科にご紹介下さい。当科の垣根は低いです。治療に関しては、生物学的製剤での数多くの経験とその後の新規薬剤の治験などを通して、当科は最新の治療に関しても多くの経験と知見を有しています。治療にお困りの症例があれば喜んで診療のお手伝いをいたします。なお、当科では1年に1回の診療連携の会を開催しています。こちら併せて宜しくお願い致します。



診療部長ご挨拶

平素より大変お世話になっております。当科の初診患者数および逆紹介患者数の増加は先生方との良好な診療連携の賜物です。御礼申し上げます。私たちは、地域貢献と最良の医療の提供とともに高度な研究も進展させ、そのバランスとその上に成り立つ医学教育も最善のものとするべくこれからも診療・研究・教育に尽力いたします。

リウマチ膠原病科 三村 俊英
外来☎：049-276-2034

診療科のご紹介

● 消化器・一般外科

当科は消化器外科のほか甲状腺外科や一般外科を対象とし、専門医が責任をもって外来から入院治療、退院まで担当し診療を行っています。痔やヘルニアなど日常数多く遭遇する疾患だけでなく悪性疾患や救急医療などさまざまな疾患の診療を行っています。常に安全な医療を心がけ、チーム医療を推進し、合併症ゼロを目指しています。

外科治療が必要な症例がありましたらご紹介ください。また当科は手術だけでなく胆道系疾患に対す

る内視鏡治療も数多く行っており、胆管結石や閉塞性黄疸など検査から治療まで当科で一貫して行うことが可能です。

近年の高齢化に伴い高齢者でも手術の適応を考えなければならぬ症例も増加しています。このような手術適応に悩む症例でも当科にご紹介いただければ患者やご家族と相談して安全で適切な治療を提供させていただきます。



診療部長ご挨拶

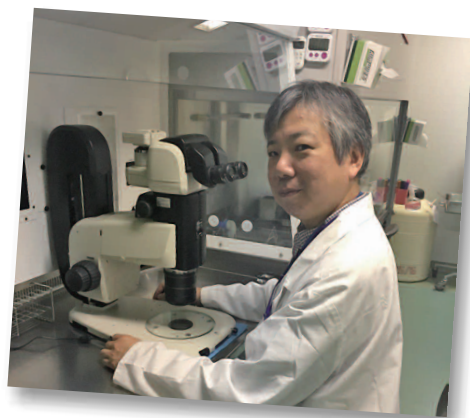
いつも大変お世話になっております。当科では、何時でも患者を断らないという旧第一外科（故尾本良三教授）のモットーを遵守継続し診療にあたってきました。これからも地域の先生方の期待に答えられるよう努力してまいります。急患などいつでもご連絡頂ければ幸いです。今後ともご指導の程、何卒よろしくお願い致します。

消化器・一般外科 篠塚 望
外来☎：049-276-1285

● **産科・婦人科 教授 梶原 健 (かじはら たけし)**

平成28年4月で、埼玉医科大学産科婦人科教授を拝命いたしました梶原です。26年前より本病院に勤務しておりますので、地域医療連携にご協力頂いている多くの先生方は私のことはご存知と思われませんが、本紙面をお借りして簡単な自己紹介とご挨拶をさせていただきます。私は平成3年に医学部を卒業し、直ちに本学の産科婦人科に入局し、1年間の出張病院への勤務と1年半の英国へ留学の期間を除きずっと埼玉医科大学病院で勤務しております。診療は産婦人科全般を行っておりますが、特に生殖医学で体外受精、顕微授精を含めた不妊治療を専門とし、それ以外に子宮筋腫、子宮内膜症などの良性婦人科疾患の診療に主にあたっております。不妊治療に関しては患者さんのそれぞれのニーズに応えた、

EBMに基づくテーラーメイド医療するを心掛けております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新任医師のご紹介

● **整形外科・脊椎外科 教授 門野 夕峰 (かどの ゆうほう)**

平成28年4月に整形外科・脊椎外科教授として着任致しました。個人的には免疫異常によって骨関節破壊をきたす関節リウマチ、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎など炎症性疾患の診療を専門としております。運動器に関連する炎症性疾患においては、不可逆的な骨



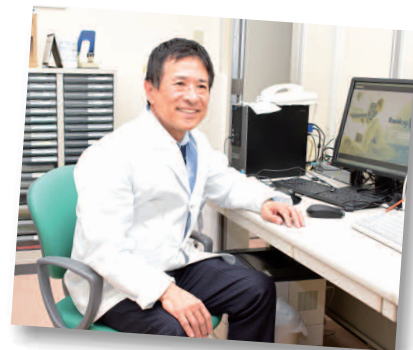
関節破壊の進行を抑制するとともに、日常生活に支障のないよう運動機能を維持するトータルケアを行うことが重要と考えております。このような考えの下、整形外科医として人工関節置換術、関節形成手術などを行うだけでなく、サイトカインシグナルを標的とする薬物治療も行っております。必要に応じて関連するリウマチ膠原病科や皮膚科とも連携しながら診療しております。

整形外科・脊椎外科としては、運動器を扱う診療科として急性期の外傷から慢性期の変性疾患まで広く診療を行っております。手術療法を主体として診療してはありますが、保存療法も含めて、何かございましたらご相談いただきますようお願いいたします。

● **放射線腫瘍科 教授 川田 哲也 (かわた てつや)**

平成28年7月で、埼玉医科大学放射線腫瘍科教授を拝命いたしました川田哲也と申します。平成元年に慶應義塾大学医学部を卒業後、放射線科に入局し、画像診断、放射線治療を学んでまいりました。研究では放射線によるヒト染色体損傷および修復の研究を続けております。埼玉医科大学病院放射線腫瘍科では私、鈴木健之准教授、関智史講師の三人体制で放射線治療にあたっております。また、大学病院、国際医療センター、総合医療センターの諸先生方とも連携を密にし、三施設で一つの大学という理念のもと協力しあい、癌患者さんのことを第一に考える診療を行っております。本年度より前立腺癌に対する強度変調放射線治療、去勢抵抗性前立腺癌の

内用療法も始めました。癌治療における放射線治療は今後、一層重要な役割を担うと考えており、埼玉県における中核病院として地域医療連携につとめてまいります。患者様の幸せを第一とする放射線治療を行っていく覚悟でありますので、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



● **眼科 教授 篠田 啓 (しのだ けい)**



このたび平成28年8月に眼科学教授として着任致しました篠田啓と申します。

いつも多くの患者さんをご紹介くださり誠にありがとうございます。当院の眼科部門はアイセンターを標榜しており、幅広い疾患を受け入れられる体制ですが、マンパワーの問題もあって待ち時間が長いなど、ご迷惑をおかけしております。これら課題も含め、時代の変化、地域のニーズに対応できるよう、システム改変等柔軟に対応していきたいと思っています。

診療情報提供書はもとより、地域の研究会などを通して、教室員と先生方とお互い顔の見える関係を構築し、埼玉県西部地区の眼科医療チームとして、一人一人の患者さんに適切な診療を提供できるよう努力したいと思います。

地域の先生方には、ご指摘、ご要望などをいただき、アイセンターの成長にお力をお貸しいただけると幸いです。

未熟者ですが、アイセンターの全メンバーと力を合わせて、地域の眼科医療に貢献したいと考えております。皆様、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

新任医師のご紹介

● **緩和医療科 教授 岩瀬 哲 (いわせ さとる)**

平成29年10月で緩和医療科教授を拝命いたしました。私は平成6年に埼玉医科大学を卒業し、埼玉医大総合医療センターで2年間の外科研修を終え、平成8年から同センター放射線科助手として放射線治療を学びました。そして、平成10年に東京大学医学部附属病院放射線科の医員となり、平成15年には東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部の助手になりました。その後、平成24年には東京大学医科学研究所附属病院緩和医療科の特任講師となり、平成27年から慢性疾患の二次予防システム「見守りケア」（ICTを利用した遠隔診療）を研究開発、平成29年3月に鹿児島県薩摩川内市と共同研究契約を締結、薩摩川内市の甑島列島において「見守りケア」が市の健診事業の一環として開始されることとなりました。今後は地域医療に深く関わり、急性期病院と在宅療養支援診療所が一体化する管理システムの構築を目指したいと考えております。そして、慢性疾患の二次予防を専門とする臨床医を育成して行きたいと考えております。



● **病院長からのエール**

平成28年4月から29年10月までに赴任された新しい教授に自己紹介していただきました。

産婦人科の梶原健教授は不妊治療が専門ですが、良性婦人科疾患の診療も担当し、地域の周産期医療を担う当院の新しい柱として活躍中です。整形外科・脊椎外科の門野夕峰教授は、関節リウマチ等のリウマチ性疾患が専門で、特に最近注目を集めている強直性脊椎炎やその関連疾患の分野では日本のリーダーの一人です。放射線腫瘍科の川田哲也教授は、新たに当院に導入された放射線治療装置を用いて強度変調放射線治療を行い、患者さんの被爆量や照射時間の軽減に努めています。眼科の篠田啓教授は、伝統的に数多くの患者さんの外来診療や手術を手がけてきた当院眼科の運営責任者として、あらゆる眼科疾患に対応できる診療体制を整えました。今後は先進医療も進めていく予定です。岩瀬哲教授は緩和医療の専門家で、これまでががん患者さんの緩和ケアを中心に診療してきましたが、当院では循環器や呼吸器等の慢性疾患を含めた患者さんのケアの質を向上させるシステム作りを目指しています。以上5名の先生方の活躍が、大学病院のさらなる医療の質向上に貢献するものと期待しております。

看護部から

埼玉医科大学病院退院調整支援看護師の活動を紹介します。

2017年4月から「入院前からの退院支援」を目標に退院支援専従管理者1名と外来、病棟の退院調整看護師68名が情報交換、事例検討会、勉強会を行なっています。患者さんの背景や関連施設の特徴をよく理解し、連携する方々との関わりを大切に退院支援を行なっていきたくと思っています。在宅療養支援の担当者と情報交換をしていますが、ケアマネジャーから「医大の敷居が高く連絡ができない」「情報提供の内容が不十分」というご意見を頂くことがあります。(写真1)

これらのご意見に対し、病棟の退院調整看護師と一緒に連絡の方法や提供する情報内容を検討してきました。これからも退院前カンファレンスなどを通し、しっかりと情報共有をしていきたいと思えます。(写真2) 顔の見える関係で退院支援をする事が、お互いの施設の利点を活かし、患者さんに合っ

た退院支援につながると考えています。患者・家族に寄り添い、その人らしい生活ができるようになるための退院支援を行なっていきます。今後ともよろしくお願い致します。



写真1



写真2

地域医療連携室から

医療機関の皆様へ

地域医療連携室では、医療推進、機能分化に伴う集約的な窓口として、医療機関からのカルナ（インターネット予約システム）やFAX紹介による診療予約受付、外来担当医表の発送、などを行っています。

紹介元の先生方からの**患者紹介に関する問い合わせ（受診相談、転院相談等）**については、**直接該当科外来へ**お電話をお願い致します。

連携医療機関からの各種問合せに関して迅速に対応させていただいております。また、紹介医療機関への報告書（お返事）が滞ることのないように、病院連携システムにて管理しております。未報告に関しては外来と連携をとり対応させていただきます。

患者さんをご紹介頂くにあたって

当院では地域の医療機関と、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ることを目的として提携医療機関・登録医制度を設けています。登録頂きカルナ（インターネット予約システム）をご利用頂きますとインターネットで診療及び検査の予約が行えます。

シンフォニーについて

埼玉医科大学病院は地域の先生方との顔の見えるきめ細かい情報交換を行い、さらに地域との連携を深めてまいりたいと考え、シンフォニー（紹介患者報告会）を平成24年から毎年2回開催しております。

【シンフォニー】

紹介して下さった地域の先生方に、患者さんのその後の経過を主に診療科の特色等も交えながらご報告をする会です。

地域医療連携室 049-276-1876

カルナ(インターネット予約システム)の利用

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶ カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送またはFAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

提携医療機関・登録医 申請届

平成 年 月 日

埼玉医科大学病院

病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム(提携医療機関・登録医制度)の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1医療機関1名(理事長・院長・所長等を明記)

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX番号

カルナ希望 あり なし(どちらかに○をつけてください)

利用者の声

かあいファミリークリニック

2011年に越生町で開業してからカルナを利用させて頂いています。まずカルナの有用性ですが、必須事項を入力するだけで、予約をとることができ、後で紹介状をゆっくり作成できるので、診療をスムーズに進めることができます。診察中に紹介状を作成しなくていいので、患者さんをお待たせすることもなく、後で紹介状を受け取りに来て頂く必要もありません。患者さんからは、カルナで受診時間を予約できるので、待ち時間が少ないと好評ようです。

改良してほしい点は、仮予約をするときに入力する必須事項の項目が多いので、名前、生年月日だけで、出来るようにしていただけたらいいと思います。

院長 河相 開流



医療機関情報

診療科目：内科・外科

診療時間：月・火・木・金曜

午前8：45～12:00 午後3:00～6:00

土曜：午前8：45～12:00 午後3:00～5:00

休診日：水・日・祝日

ホームページ：

<https://www.kaai-family-clinic.org/>



2-1. 患者紹介(外来診療予約)について

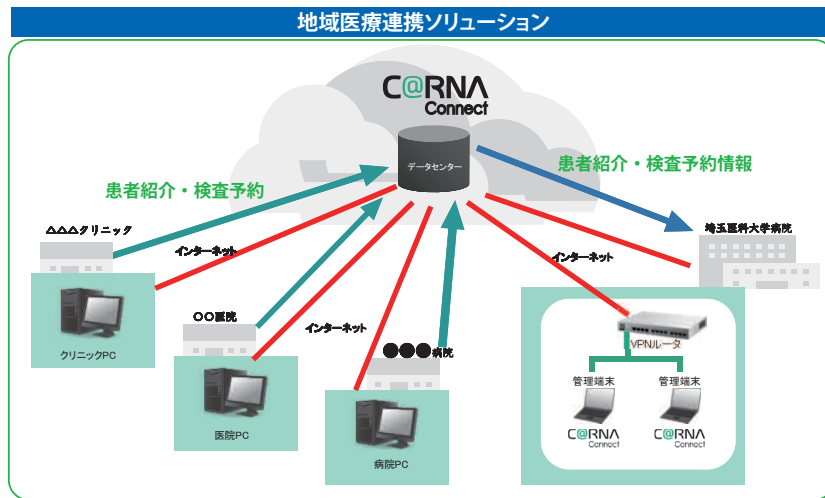
- ①カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ②患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



ゆずの木台クリニック

カルナシステムは有効に利用させていただいております。急を要する患者さんに対しては利用できませんが、検査や受診にある程度余裕がある患者さんでしたら、非常に便利なシステムだと思います。私のクリニックでは、各種検査（CTやMRI検査など）の予約と各科への患者紹介に利用させてもらっております。あらかじめ、時間を設定して予約できるので、患者さんが待つことなく検査や受診をできますので、患者さんから好評です。カルナシステムを使えない科がありますので、できれば全科に対応できること、また予約を一週間以内に入れることが可能であれば、更に助かります。

院長 鈴木 将夫



医療機関情報

診療科目：内科・糖尿病・循環器内科・眼科・小児科
 診察日：日曜祭日を除く毎日
 （夏季、冬季は休診日あり）
 受付時間：月曜日は午前8時30分～11時30分、
 午後3時30分～6時30分（曜日によって、診療科が異なることがあります）



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長を
主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。
これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

急患センターER : 049-276-1199
地域医療連携室(カルナ・FAX紹介) : 049-276-1876
番号案内 : 049-276-1111

総合相談センター(退院調整) : 049-276-2119
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院

地域医療連携ニュース(創刊号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 織田 弘美
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会
編集責任者 : 篠塚 望
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
発行日 : 平成30年1月1日
ホームページ : <http://www.saitama-med.ac.jp/hospital>

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。